

エゾノカワヤナギ

Salix miyabeana

ヤナギ科



エゾノカワヤナギ

名前の由来

「蝦夷（北海道）」のカワヤナギで、「カワヤナギ（川柳）」は川岸に多い柳の意。「ヤナギ」は①古く中国で矢をつくったことから、ヤノキの転。②成長しやすいため、イヤナガ（彌長）の略。③梁をつくったことから、ヤナ木。④柔萎木（やわなぎ）の意。などといわれている。漢字名：蝦夷の川柳

形態的特徴

河岸に多い落葉樹、樹高は5m程から10m以上になるものも。葉は狭披針形、長さ6～16cm、細鋸歯縁、無毛、互生。雌雄異株。花は雄花序の長さ4～6cm、葯は黄色で初め紅色を帯びる、雌花序は淡緑色で長さ3～6cm、5月に葉より先に開花。果実は果序の長さ3～6cm、6月に成熟。

類似種との見分け方：葉が他のヤナギと比べてかなり細く、かなり太くなった幹や枝でも、樹皮がすべすべしている。また樹皮の割れ方が、天然酵母パンの焼き上がり時の裂け方に似ている。



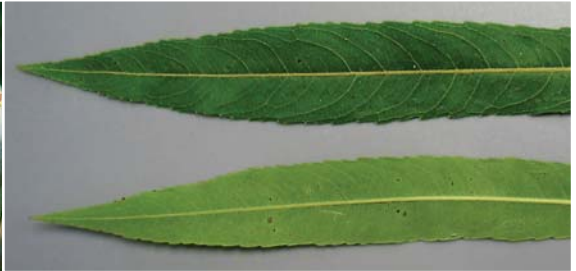
エゾノカワヤナギの雄花



エゾノカワヤナギの雌花



エゾノカワヤナギの実が開き、綿毛と種が出る



エゾノカワヤナギの葉。細かいギザギザがあり、毛はない

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ



エゾノカワヤナギの樹形（若木）



エゾノカワヤナギの樹皮



(上) エゾノカワヤナギの枝先
(下) エゾノカワヤナギの冬芽

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

生育環境・分布

主に水辺に生育し砂礫地を好むが、粘土質でも生育して、浸水にも良く耐える。

分布：日本固有種(?)。国内分布は、北海道、本州北部。

繁殖生態・寿命

5月に葉より先に開花。他の多くのヤナギ類と同様に、蜜腺を持つ虫媒花であり、果実は果序の長さ3~5cm、6月に成熟。ヤナギ類の種子には無数の長毛がつき、風散布さ

北海道内分布は、全域（渡島半島を除く?）。十勝地方生育状況は、全域、特に川岸。

他生物との関わり

コムラサキ幼虫の食樹となる。

《ヤナギ一般》花の少ない早春に開花するので、この時期の昆虫にとって貴重な吸蜜源となる。また、ヤナギ類は新条（その年に出た枝）が伸びるにつれ新しい大きめの葉を先に付けるが、早くから出た葉は順番に落ちていく。これによって長期に渡り水生昆虫に餌を供給でき、魚を養うことができる。

れる。その距離は数100mから数10kmにまで達するという。寿命は不明。



コムラサキ。幼虫時、エゾノカワヤナギなどのヤナギ類を食樹とする

植栽関係

挿し枝をすると、不定根が非常に良く発生し、初期成長量も大きい。

一般的にヤナギの挿し木には、直径1~3cm（枝齢2~5年生）でまっすぐなもの良く、長さ30cmが基準となる。無理矢理打ち込まず、案内棒などで穴を開けて、斜めに埋

めることが望ましい。上下間違わないようにすることも大切である。埋枝時期は落葉後の晩秋、発葉前の早春までが適当である。なおクロボク土といわれる黒土は客土してはならないという。

興味深い話

■護岸に用いられる。

■直接の関係はないが、川柳（せんりゅう：五七五の歌）の語源は「柄井川柳」という人名から来ている。川柳はもともと「課題下の句」から上の句を考える遊びで、作られた上の句に対する評者の一人が柄井川柳。他の評者に比べ、川柳点は批評が優れていたため、名前が残ったという。

(<http://dell.ics.nitech.ac.jp/~sho/check.html>参照)

■〈ヤナギ一般について〉多くのヤナギ類は挿し木に向いていて、「さし木にも風はそよぎて柳かな」（里童）という俳句があるほどである。『万葉集名物考』（著者、刊行年代不明『日本文学古註釈大成』に収録）には「柳は枝を折て地上にさしおけば生ひやすく根植はかへりて育たぬもの也」とあって、挿し木の場合は根付きやすいが、移植は育ちにくいことを示している。しかし一般的にヤナギ類は、

移植には強いと言われ、相当大きな木でも発葉前の適期に移動し、枝をかなり剪定するとより良く活着するという。

■ヤナギは全体として早熟性であり、発芽後10年ほどで種子散布をおこなう。また風散布によって種子が遠距離まで分散するため、その生育域を短期間に広げる可能性を持ち、「速足の旅人（クイックトラベラー）」と呼ばれるという。



冬のエゾノカワヤナギ

春、エゾノカワヤナギの雌株

配慮事項

特になし

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜理西社 1990

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社

1978

「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎（社）北海道治山協会 2001

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ